

長期投資家のコア銘柄になるために —企業の個性を発揮し、平均を超えよ—

野村證券 グローバル・リサーチ本部
パンアジア インダストリアルズ リサーチヘッド

齋 藤 克 史 CMA



セルサイドアナリストとして機械産業を担当してほぼ20年がたつ。日本や海外で企業、投資家と多くのミーティングを重ねてきた。限られた分野であるが現場の経験を踏まえ、感じていることをお話ししたい。

第一に、長期投資家のポートフォリオにコア銘柄として組み入れられる銘柄は限られているのではないか、と思う。投資判断を最終的に行うファンドマネジャーとの議論が、いくつかの共通した銘柄に集中する場合が多いためである。

もちろん、投資資金の性格、運用スタイルは様々で、株価の割高と割安は常に存在する。そういう意味では、あらゆる銘柄が運用対象になる。しかし、企業が望むような「長期投資家による安定保有株」になるためには、将来にわたる卓越した収益力、利益成長力が求められる。運用者が世界を見渡せば、多くの企業が切磋琢磨しており、投資機会は多い。その中で認められる一社になるための競争は非常に厳しい。このことを、多くの経営者にもっと認識していただきたいと思う。一方、実際に投資先として組み入れられている企業の経営者からは、強い緊張感と迫力が伝わってくる。その差は、とても大きい。

第二に、長期投資のファンドマネジャーから受ける質問は、事業モデ